

編輯室より

同人

森祐齋香鴻山野梅成中中辻武高太吉大林

藤池本間本瀬野西部智安幸永西
田西信政
ほ清二幸修光重無孝太太
の善二

ほ雄郎精武二辰信極一郎郎二江門雄孝雄

◇……赫々たる連戦連勝のうちに大東亞戦争第二の新春を迎へた。元旦あきままだき哨戒機の爆音を聞きつゝ例年の如く、屠蘇雜煮を祝ふことを得て、聖恩の鴻大さに感泣すると共に聖戦完遂に邁進すべき吾々銃後の決意を一層強固ならしめたことであつた。

◇……上演時間制限に悩みつゝある文楽座がその對策の一つとして一月興行は晝夜二部制を試みてゐる。晝の部は通し狂言、配役は若手を中心としてゐるやうであるが、呼びものになるもの、魅力のあるものがなくて、分割すべからざるものを分割した手薄さを暴露してゐる。二月も同様二部制が續けられるので、その成績を見て改めて、文楽の將來と結び合せて検討を試みない。

◇……豫てより本誌に文藝欄を設けたい計畫を持つてゐたが、その第一着手として此の度同人梅本重信氏の力作戯曲「わが庭」を登載することが出来たことを喜びとする。同氏は曩に「武藏野」「降誕の女」などの傑作を發表されてゐることは既に周知のことである。

◇……目次装畫の筆者、秋草彌三郎氏は日本戲畫院の同人にして、演劇美術の研究を専門として、特に文楽の人物繪については造詣深く、本誌に寄せられた御厚意に對し誌上を以て深謝する。

淨瑠璃雜誌 第四百十六號

(昭和十八年一月號)
毎月一回二十日發行

●本誌部
一 部 金五十錢
半 部 金三十錢
●定價
部 金五圓

○御注文は一切前金の事
○雜誌發送を以て領收證に代ゆ
○外國送りは一冊に付郵税十錢を要す
○振替は浪花名物淨瑠璃雜誌社。
○座内阪二九二八番

廣告

普通 一行 金三十錢
一等 一行 金二十圓
二等 一行 金二十圓
特等 一行 金三十圓

○特等は一頁以下の需に應ぜず六回以上の特約には割引す
○製版を要する時は其實費を申受く
○廣告料は總て前金の事
○一行九ポイント活字

發行所 大坂市西成區千本通二ノ三二
編輯人 樋口虎之助

印刷所 大坂市西區江戶堀下通四ノ三〇
坂口秀吉

印刷所 高尾印刷所
(西大 第四九〇)

發行所 淨瑠璃雜誌社
大坂市西成區千本通二ノ三二